

会 議 録

1 会議名

平成30年度 第6回高田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 自主的審議事項 雁木の保存を考えたまちづくりについて(公開)

(2) 地域課題の検討について（公開）

3 開催日時

平成30年9月10日（月） 午後6時29分から午後7時49分まで

4 開催場所

高田公園オーレンプラザ 会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：西山要耕（会長） 高野恒男（副会長）、吉田昌和（副会長）、
青山捷一、飯塚よし子、浦壁澄子、大滝利彦、小川善司、北川 拓、
小竹 潤、小林徳蔵、佐藤三郎、澁市 徹、杉本敏宏、高橋浩輔、
松矢孝一、宮崎 陽、山中洋子、山本信義、吉田隆雄

- ・ 事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、佐藤係長、小林主任

8 発言の内容

【佐藤係長】

- ・ 20名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 同条例第8条1項の規定により、議長は会長が務めることを報告

【西山会長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 会議録の確認：西山会長、浦壁委員
次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

【西山会長】

「議題等の確認」について、質疑を求めるがなし。

—自主的審議事項 雁木の保存を考えたまちづくりについて—

【西山会長】

次第3報告(1)「自主的審議事項 雁木の保存を考えたまちづくりについて」に入る。事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料No.1に基づき説明。

【西山会長】

事務局の説明に質疑を求めるがなし。

—地域課題の検討について—

【西山会長】

次第4議題(1)「地域課題の検討について」に入る。

先月の会議では、委員から3つのグループに分かれて、高田区における地域課題について検討してもらい、最後に各グループの代表者から発表をいただいた。

前回の会議で発表された各グループの内容を、資料No.2のとおりまとめてある。

資料No.2のとおり、グループ討議では地域課題のテーマを、「中心市街地」から「防災対策」まで8つ出してもらった。

今後の進め方については、この8つのテーマから、緊急性の高さや地域住民の生活に影響が高いものなどを考慮しながら、まずは3つほど絞ってもらい、その絞ったテーマについて、さらに委員から意見を出していただきながら、課題の内容を深く掘り下げた上で、高田区で取り上げるテーマを決定し、自主審議を実施していきたいと考えている。テーマが8つ出ているが、私たち委員の任期はあと1年ちょっとで、これ

から想定される議題、それから諮問事項や地域活動支援事業のルールの見直しなどが入ってくると、8つのテーマを全部するのは厳しい。正副会長の事前協議でも話したが、8つを全て審議していくことが、時間的に可能かどうかということもあり、まずは3つくらいにテーマを絞っていくのがよいのではないかということになった。最初は3つ程度に絞った上で、今後議論していくことについて諮り、委員の了承を得る。

出していただいた8つのテーマは、全部が高田区で話し合っていかなければならない問題ではあるが、先ほど話したとおり、緊急性や住民の生活に影響度が高いものなどの視点から議論してもらい、テーマを3つ程度に絞っていただきたいと考えている。ここからはどれがよいかという意見を含めながら、委員から発言をしていただきたいと思う。例えば上から3つを皆さんが話し合いたいとなったら、今度はその中からどれを深く掘り下げるか議論したい。まずはこれを話し合った方がよいという意見があったら出してほしい。

【高橋委員】

前段階の話だが、8つテーマが出されて、それを3つくらいという話だが、どれも大事なことだと思う。見ていくと、1つのテーマの中に、もう1つ2つのテーマを含んで話し合いができそうな内容もあるので、それらを整理していけば、3つ程度にまとまるのではないかと。この中で完全に独立しているのは「防災対策」。あとは「高田公園」も「住み良いまちづくり」に関係する気もするが、「高田公園」は1つで独立している感じはする。「住み良いまちづくり」には、「買い物難民」や「中心市街地」も関わるし、「空き家対策」もそう。そのような論点で整理していけば、もう少し絞れるのではないかと思う。8つとも大事な項目なので、一緒にできるものは一緒にして、もれなく議論していけるようにできたら。全ては無理だと思うが、そのような方向で整理していけばよいと思う。

【松矢委員】

A、B、Cの3つのグループの結果を見ると、共通項がある。それは「空き家対策」と「高田公園」であり、どのグループにも入っている。それだけ関心があるということになる。そういう意味では、候補としては非常に有力ではないかと思う。この中で私が大事だと思うのは「防災対策」である。先日北海道で大きな地震が発生したこと

もあり、液状化や大雨に伴う洪水等の問題もあるので、「防災対策」は非常に大事ではないかと思う。

【澁市委員】

会長のとおりに、これは全部同時に議論するのは無理だと、時間的に無理だということなので、私は賛成だが。要するにどれを議論の対象にするかというのは、ある基準を設けて、それによってプライオリティというか、まず議論しなくてはならない項目、緊急度を分けたらよいのではないかと思う。その基準としては、まず住民の生活に直接関わってくるかどうか、特に生命や財産に関わってくるかどうか。そういう基準をまずみんなで話し合っ、て、こういう基準でこれをスクリーニングするというか、選ぶことをするという合意がまず必要だと思う。基準がない状態で、良い、悪いと議論していくことは、まともな成果が出て来ないと思う。

もう1つ、高橋委員のおりに、これを見ると、例えば「中心市街地」という中に、はっきりと「買い物難民」と書いてある。私はAグループだったが、当日は宮崎委員が書記を担当していたと思うが、テーマとして「買い物難民」という言葉が出されていたと思うが、ここでは落ちている。「空き家対策」は、どのような視点から見るかということ、防災。空き家があつて誰も住んでいなかったら、火事になったらどうするのかとか、あるいは地震で崩れてきたらどうするのかと、老朽化すればますます危ないのではないかという点において、防災の面からも「空き家対策」は考えていかなければならない。全てに関わる課題としては、中心市街地から人がある程度の割合で出ていく。2、3年前に、市の創造行政研究所が各区、あるいは市全体の過去の人口動態を分析した資料を配ってくれたことがある。特に高田区あるいは直江津区のような中心市街地からの人口がどこに流出しているかということ、関東圏に行っているのが多いが、すぐ隣の金谷区や新道区、春日区へ行っているのがかなりある。原因は何かということ、そこに安価な土地が作られているため。立地適正化に関する計画を市が作って、無秩序な土地の開発を抑制しようとしているが、今現在も近隣で区画整理や住宅地造成が続いている。中心市街地で過疎化が進み、中山間地で過疎化が進んでいるのに、まだそのようなところで住宅地を作って、そこに関東方面を中心に全国から人が来るのではなく、むしろ上越市内で移り住んでいる状況がある。住宅地がすごく広がり過ぎて、これから10年、20年後に人口が減って行けば、非常に不経済であ

る。市が薄まった人口のところ、人口密度が低いところを管理していかなければならない。非常に難しくなってくると思う。これをもう少しコンパクトなシティにしなくてはいけないと思う。そのような対策についても、これと関連して市の考え方を聞きたいと思っている。

【西山会長】

今ほど濫市委員から基準をどこに置くかと発言があったが、ある程度、近未来と長期的な未来を見据えながら、将来の高田区のあり方を見ていければと思う。議論する内容と、「買い物難民」のように、早期に話をしていかなければならないような内容、例えば防災もそうだろうし、身近というか、そこから中長期の町の形を見据えたような話し合いもできると思う。委員の意見を聞きながらというのもあるが、基本的に地域協議会の自主的審議事項というのは、住民の生活に密着し、住民自身が生活で困っている状況や内容についてを話し合う部分が強いと思う。地域協議会の委員を10年間やってきて、議論された中にはそのようなものが少なくないと思っている。委員の皆さんがどのように考えているかということもあるし、もう少し委員の意見をいただければと思う。ここでは議論するというよりも、まずは委員の意見を聞きたいので思っていることを言っていたきたい。

【吉田隆雄委員】

3つくらいに関連性があると思ひ、絞ってみた。「中心市街地」、「空き家対策」、「住み良いまちづくり」、「買い物難民」、これは1つにまとめて考えられる。それから「儀明川、青田川」、「防災対策」も1つにまとめてよい。あとは「高田公園」と「観光」も関連性があるので、1つに絞ってよいと思う。私なりに分けてみたが、これを個々に話すのか。例えば「防災対策」に対する意見を聞いているのか。

【高野副会長】

今は、まだ大きなくくり。

【吉田隆雄委員】

くくりでいいんですね。私なりにくくってみた。

【山本委員】

吉田委員のとおり、分類すれば3つ程度になると思う。それともう1つ、大きなくくりでいうと、「住み良いまちづくり」は、全てのテーマが当てはまってしまうので

はないか。これ1つで全てのテーマが当てはまるので、これは項目としてはふさわしくないのではないかと思います。「防災対策」も、「高田公園」も、「買い物難民」や「空き家対策」など、全てが「住み良いまちづくり」に関連する。こういう広いテーマで議論すると、まとまりかけているものがうまくいかなくなるのでは。もう1つは自主的審議なので、市に意見する立場で考えると、あまり大きなくくりで議論すると、意見が言いにくい、あるいは市も聞きにくいということになるので、実際に審議する際には、もう少し絞って意見をまとめていく必要があると思う。意見の絞りやすいテーマを選んだ上で、審議や討議を進めていく方法がよいと思う。吉田委員の意見に賛同し、それに加えて意見を申し上げた。

【山中委員】

私も皆さんと同じ意見だが、自主的審議をするにあたって、急いで議論しなくてはならないような、まずはそのような内容を最優先した方がよいと思う。今年の豪雨や地震のように災害が突然襲って来たりすると、解釈次第で全てに当てはまるようなところがある。繋げようと思うとみんな関連しそうなので、緊急度の高いものからするのがよいと思う。

【宮崎委員】

今回意見書を出した市からの回答を見た上で、重要度を決めようという考えである。

【西山会長】

意見書とは「雁木の保存」のことか。

【宮崎委員】

そのとおり。

【杉本委員】

最終的に市に意見書を提出することを前提に、意見書としてまとめやすい方向で考えなければならないと思う。あまり風呂敷を広げてしまうと、何を言っているのかわからないものになってしまうから。入り口は広くてもよいと思うが、これを見ると、共通している部分がたくさんあるので、どこから入っても、最後はみんな同じところに行きそうな感じがしないでもない。その考えでいえば、どれでもいいので1つを選ぶ。最終的にはどんどん詰めていくと、どこかで収斂（しゅうれん）するのでは

ないかと思うから、あまり深刻に考えないで、気楽に入り口を作った方がよいと思う。

【佐藤委員】

Cグループが挙げたのは「買い物難民」と「防災対策」であった。緊急性の高いものということで、「空き家対策」、「買い物難民」、「防災対策」の3つに絞った。

【小林委員】

「中心市街地」から「防災対策」の8テーマの中で1番早く対応できるのは、「高田公園」だと思う。「住み良いまちづくり」についても、意外と早く対策できるのではないかと思うので、優先順位をつけて早めに動いた方がよい。

【小竹委員】

地域課題の議論なので、最終的に解決させていきたいと思っている。どうしたら解決できるか、どのような形が解決なのかという視点で考えていたが、そうするとまとまりがなくなってしまう。自分の視点的に、「空き家対策」や「住み良いまちづくり」等の全部そうだが、違う区に住んでいる人たちが高田区に住みたいか、実際に高田区に住むように持って行くかというやはり難しいし、なかなか解決できない課題が多いと思う。自分個人としては、今高田区のアパートに住んでいる身だが、実際に家を建てることを考えた時に高田区に家を建てるかという、正直なところ少し考えてしまう部分もある。それではどうしたら高田区に来たいかという面においては、「観光」を含めてだが、高田区でどのように楽しむかとか、そういう視点で考えた方が、今他区に住んでいる人たちもまた高田区のことを見直したりすると思う。やはり上越市の中心は高田区だと思うので、そのような意味でも高田区に足を運んでもらうきっかけや、上越の魅力といえば高田区の何かがさっと出るような形となるよう、自分としては「観光」を詰めていきたいと思う。

【北川委員】

8つの地域課題は、それぞれどれも重要だと思うが、澁市委員のとおり、緊急性の高いものを討議していくのがよいと思う。私が優先的に進めた方がよいと思うのは、この8つのうち「中心市街地」、それに関連して「空き家対策」や「買い物難民」がついてくる。やはり「中心市街地」、高田区から転居されて、近隣の区に移転が多いということになると、コンパクトシティという考え方からは、かけ離れている、中心

市街地が過疎化となっているのが現状だと思う。まずは、その中心市街地が過疎化になっている状況について、市の担当課からぜひ話を聞いてみたい。もう1つ、「防災対策」も緊急性はあるものの、そこに関しては市ではそこそこやっていると思う。昨今全国的に様々な災害が発生し、個人的にも皆さん対策を取っていると思うので、「防災対策」というよりも「中心市街地」の対策を優先した方がよいと思う。

【小川委員】

実は今日、「防災対策」に関して、町内会長から聞いた話。町内で防災訓練をすれば、市から必要な物資がもらえる。各町内がそれを知った上でやっているのかどうか、そこがまず問題。十分充実した制度になっていると思う。それからもう1つ、今日、町家を改装した喫茶店で、三重県から来られた方に偶然会った。何しに来られたのか声掛けしたら、その方が話すには、町家を取得して、そこで事業所を開きたいという夢を語っていて、今日も視察で市内を回っているとのこと。

一応ここでまとめるとすれば2つ、外に対してと内に対して。内に対してというのは、「住み良いまちづくり」。まず私たちが自分たちの町について、どれだけ誇れるか、みんなそれが分かった時に、この町の良さが分かる。もし足りないところがあれば、どうやったらそれが素晴らしいものになっていくか、良かったなという町になるかを。もう1つは対外的なもので、10年前と比べれば観光客の人数が全然違う。今来ている観光客、「観光」、この2つ、内と外に対してテーマを決めればよいと思う。

【大滝委員】

考え方的には小川委員に賛成だが、「住み良いまちづくり」というと、これは全部に重なる。内容が大き過ぎて、あらゆるものが全部入ってしまうのではないかなと思う。それと「高田公園」は、他のものと異なり、比較的住民と絡んでいないためにどういう風にしようかとか、どうすればもっと良くなるかなど、自由な意見を出すことができると思う。高田公園自体は、様々な組織が動いていることから、それらを参考にすれば、いろいろ意見も出てくるのではないかなと思う。

【浦壁委員】

ここに出されているテーマは、1つのテーマにまとめることができる。「住み良いまちづくり」になると、「中心市街地」とか、「空き家対策」も入る。似たようなものをまとめて、テーマを大きく2つくらいにして、それこそいろいろな意見を出す。そ

れを収斂（しゅうれん）して意見書を出せるところまで詰めていく。そのような方法がよいと思う。それを何回か繰り返して、意見を収斂（しゅうれん）して、1つの核を作って、それについて強いイメージを出せるような、そのような姿に持って行けばよいと思う。

【飯塚委員】

テーマについては、どのグループも似たようなものを出しているが、なぜ「住み良いまちづくり」や「中心市街地」のようなテーマに挙げられてしまうほど、衰退してしまったのかと思う。このいうものは衰退する前に手を打っておかなければいけないのに。テーマとして出されたので、これに対してするのであれば、「中心市街地」、「住み良いまちづくり」、「空き家対策」、「買い物難民」、全てが関連していることなので、これから良くしていこうという考えでやると思うが。「中心市街地」については商店街駐車場の有料無料化の問題もあるので、なぜこのようになったのかという原因から探っていくのもよいと思う。

【青山委員】

これは2つに分けられると思う。我々がここで皆さんといろいろな意見を発表しながら、小さな意見でも通るのではないかという問題。そして本町商店街に何十年前から有名なコンサルタントを呼んできて、いろいろな研究をした結果が現在に至っているのではないかと思う。実際にはこの「空き家対策」以降いろんなジャンル別にくっつけて、例えば本町の空き家なら固定資産税並みのお金で貸しても、売り上げ無くて赤字という答えが返ってくるのが現状。そういう意味では自分たちがこの中で少しでも、小さくても意見を出して、その意見が取り上げられるような方法で話し合った方がよいと思う。

【吉田副会長】

8つどれもみんな大事だと思うが、一度に全部を取り上げることができないので、最初は4つくらいと思ったが、高橋委員の話を聞いて3つくらいかなと。その3つのうち、どれにするかという段階で、市の担当を呼んで、いろいろな対策の方法や考えを聞いてから、優先順位を決めたらどうかと思う。

【高野副会長】

杉本委員のとおり、案件になりやすいものを選ぶのがよいと思う。ただ共通項があ

るからといってまとめて、詰めていくと、それがまたばらばらに分かれる。あまり大きいものにしてしまうと意見書としても市へ提出しにくいものになるのではないのかと思うので、私は「観光」と「買い物難民」辺りがよいと考えている。

【西山会長】

会長の立場で言わせていただくと、皆さんの意見に異論はない。高田区の住民が、地域協議会で話し合ってもらって良かったと言ってもらえるテーマは何なのだろうというのが、テーマを選ぶ際に優先すべきことであり、それが根底にあると思う。個人的には澁市委員のとおり緊急性の高いテーマを議論すべきと考えている。「住み良いまちづくり」は、全ての項目を網羅していると思われる。しかし、「住み良いまちづくり」を話し合うとすると、何にポイントを置くかとなり、結局テーマを選ぶことになる。そう考えるともう少し具体的な内容に絞って議論した方がよいと思う。絞らないと議論にはならないのではないかと思う。皆さんの意見を聞くと、1つは緊急性のあるテーマを優先すべきという意見があった。大きな範囲のテーマだと皆さん議論しづらいし、議論しながらどんどん詰めていくことは相当大変だと思う。ある程度議論しやすい生活に密着しているようなテーマ、例えば市に意見書を出すにしても、相手から理解してもらえるような内容がよいのではないか。意見として多かったのは、「防災対策」、「買い物難民」、それから「中心市街地」。まとめれば、1つのテーマにすることができるかもしれないが。感じたのは、「空き家対策」が、地域協議会でどこまで話し合えるのだろうかということ。実は、第二期の地域協議会こうすることで議論した際、最終的に残ったテーマが、「空き家対策」と、「高田駅前の利用」だった。

「高田駅前の利用」は議論しやすかったが、「空き家対策」については、市担当課からの説明等を受けたものの、結局のところ、どっちつかずで終わってしまったため、本当に難しいテーマだったという記憶がある。委員の皆さんが議論すべきであるというのであれば、「空き家対策」を進めてもよいとは思いますが、どうか。

【青山委員】

例えば、高田公園がなぜ「高田城址公園」にならないかという意見がある。城の付く全町内が市議会議員を通して、議会で聞いてもらっているが、市の回答としては、この程度の人数の意見だけでは、公園の名称を変えることはできないということだった。高田開府400年祭実行委員長からも要望を挙げてもらったが、どこにも反映

されていない。こういうのはどうしたらよいのか。高田区地域協議会で取り上げて市に意見書を出してもよいのか。

【高野副会長】

高田開府400年祭の時にも皆さんからの署名もあったことは承知している。とても分かりやすい案件だと思うので、私は賛成。これは良い意見だと個人的には思っている。

【澁市委員】

直接、「高田公園」に関係ないが。私が地域協議会委員になって、意見書を出したものは2つあった。ついこの間の雁木の保存に関する件、そしてセンター病院の件。2つに共通しているのは、何かしてもらわないと高田区の住民の生活に直接影響があるということだと思う。やはり我々がこれから10年後15年後のことを考えると、このまま放っておいたら、高田区はますます駄目になるということ。つまり生活に直接、負の影響を与えるかどうかということを考えて、課題、テーマを選ばなくてはいけないと思う。もう1つは会長のとおり緊急度である。このまま放っておいたら、現に本町、大町、仲町にスーパーマーケットがなくなってしまった。コンビニは1軒だけしかない。最近1軒増えたか。そうすると松矢委員は健脚を生かして歩いて買い物に行っているが、女性はなかなかそれができない。運転免許を持っていない方もいるし。貧乏ばあちゃんをBB（ビービー）というらしいが、そういう方は車を所持していない。そうすると誰が。天気が良い時はいいが、この間のような猛暑の時、あるいは雪が降った時、買い物ができないということになる。これは深刻に考えていただきたい。議論するべきだと思う。これについて市の考えを聞くことは、非常に有益だと思う。「空き家対策」も同様。この間、うちの町内会長から、私は班長をやっているから聞かれたが、市から、町内に空き家がどのくらいあるのか調べてほしいという依頼があった。いろいろと基準があるらしいが、私は空き家の現状を一番把握しているのは市だと思うが、今いろいろな人の話を聞くと、10年前で空き家率が20パーセントくらいといわれている。どんどん人口が減って出て行くから、30パーセントくらいになってしまった。全国的に見ても、あと10年で3割くらいになるだろう。放っておいたら、我々の生活に大きな影響がでる。例えば、災害という形。空き家で火事が発生したら、連たんしているところは大火になってしまう。そういうこと

を考えると、これは生活に直結している。だから、生活に直結しているか、そして緊急性があるかということ、まず2つの基準として考えた方がよいと思う。「高田公園」については非常に市相手に意見を出しやすいというのでそれを取り上げるというのは、私は反対しない。

【小林委員】

もう1つ入れてもらった方がよいと思うテーマがある。それは「子どもを育てやすいまちづくり」。小さな子どもを遊ばせる場所、ショッピングセンターに連れて行ったりしている。高田の町中で子どもを遊ばせる場所は、市民プラザとオーレンプラザくらいしかないだろう。市民プラザでは買い物ができない。だから子どもを預かって遊ばせてくれる場所があれば、わざわざ遠くのショッピングセンターまで行く必要はない。生活しやすい、買い物しやすくないと。そういうことを市や頭の良い人を集めて考えてあげないと、若い人が住まなくなる。これは「空き家対策」にもなる。若い人が住んでくれれば、「防災対策」も進められる。そのように考えていかないと。

「子どもを育てやすいまちづくり」をこの中に入れてもらいたい。そうすれば、若い人たちが、日曜日に高田公園を利用するようになる。私が若い頃は「高田公園」はアベックが多かった。そういうことを考えて、選んだ方がよいと思う。

【西山会長】

資料には挙がっていないが、小林委員から「子どもを育てやすいまちづくり」ということで、高田区をこれから良くする一環で子どもの住みやすさについても考えていかなければならないといった意見が出された。今の話についても、8つのテーマのどこかに含まれてくると思うので、その中で子どもに関するテーマも必要となった場合、一緒に話を進めていくことについて委員の了承を得る。

ここで、今ほど出された委員の意見を正副会長と事務局で整理するため、休憩に入るということについて委員の了承を得る。

—休憩—

【西山会長】

再開する。

先ほど委員からも話が出ていた、この課題とこの課題を一緒にしたらよいのではないかといった部分も含めて、今ほど正副会長で話をした。同じような意見だったが、「住み良いまちづくり」についてである。これは、個々の項目でなく、1番上のところに置くべきものであって、この「住み良いまちづくり」を課題として取り上げることになったら、「中心市街地」や「高田公園」等全部になってくる。この「住み良いまちづくり」は全部に関連があるので、1番上の題目ということで、常に横には置いておいた方がよいのかなと。それから、澁市委員のとおり、話し合うには、緊急性があるものが一番良いということもあり、正副会長としては、「中心市街地」、それから「買い物難民」あたりを話し合うのが一番良いのではないかという話になった。当初は3つ程度のテーマに絞ると言っていたが申し訳ない。杉本委員のとおり、入り口は「買い物難民」と「中心市街地」というが、高田は店もコンビニも少なくなっている。寺町は店が1軒もない。コンビニもない。そういう現状なので、これをこれからみんなで真剣に話し合っていくのがよいのではないかと思っている。皆さんの賛同が得られれば、まず「空き家対策」も考えられるが、時間をあまりかけるわけにいかなかったもので、この2つに絞らせていただいた。皆さん、どうか。

【大滝委員】

「買い物難民」はある程度の方向性が見えるが、「中心市街地」は範囲が大き過ぎるので、その中の細目で何を議論するのかがちょっと見えない。「買い物難民」も「中心市街地」のテーマの中に入るのではないかという気がする。「中心市街地」の中身はどのような細目をするつもりなのか。

【西山会長】

それについても話が出た。例えば、本町3、4、5丁目を中心市街地として捉えるのか、それとも駅周辺を中心市街地とすると、寺町まで入るのか、それでは南本町はどうするのかということもある。共通していることは、どこも買い物や店という問題があるという点である。議論をする際は、入り口を狭めて、本町3、4、5丁目商店街のことしか話し合わないということではなくて、高田地区全体が中心市街地であるという考えの中で、買い物と住民の生活に関して、どういう問題があるかについてを話し合いをしながら、問題点を出すのもよいのではないかという話になった。

【浦壁委員】

市民が今1番困っている、直結する、直面する問題、これを1番のテーマとして優先すべき。「中心市街地」では、抽象的。南本町や寺町など、どこを中心市街地に設定するのかという問題もある。そういう幅広いものではなく、本当に市民が何に困っているかという、私は「買い物難民」だと思う。「買い物難民」1つに絞り込んでよいと思う。

【西山会長】

浦壁委員から単独で「買い物難民」1つで議論してよいのでは、という意見が出た。

【杉本委員】

「買い物難民」でも何でも、何でもという語弊があるが、入り口は広くという話を先ほどしたが、とりあえず仮のテーマとして掲げたらどうかと思う。「買い物難民」についてみんなで勉強しようというような格好でもって、仮のテーマをそのようにする。話し合っていく中でどこかで収斂（しゅうれん）していく。意見書を出す段階では「買い物難民」でないかもしれない。だからそれもできるようにしておきたい。途中でもって、「買い物難民」の話をしていたら、本町商店街の活性化の話に進んでいて、そのような意見書を出さなければいけないという話になったら、入り口は「買い物難民」だったが、出て行く意見書としては「中心市街地」の活性化の意見書が出ている。それでもよいというようにしておかないと、何が何でも「買い物難民」に関わる意見書でないと駄目だという話では、議論が進まなくなってしまう。だからそういう形で、入り口は広く、1つの大きなテーマでも構わないが、どんどん議論していく中で収斂（しゅうれん）していったら、どこかで定まったらそういう名称のテーマに変わるというようにしてもらいたいと思った。そうでないと、ものすごく大きい議論になるから、入り口で決めたことが、後生大事だといわれて、最後もそれでない駄目といわれると、話は煮詰まらないと思う。テーマとしては、先ほどの会長のテーマでよいと思うが、議論していく中で、いろいろなサブテーマが出てきて、そのサブがどこかで主のテーマに衣替えするかもしれないという可能性も含んだ格好で議論を進めてもらいたい。

【西山会長】

杉本委員から意見が出たが、今回の件は食生活に直接関わるような形の議論の内容、買うということから、そのような形になるのではと思う。では、テーマを決めな

いで、仮称として括弧して作るか。最初は「買い物難民」でよいか。

【杉本委員】

それで進めて。

【西山会長】

中身をまた検討すると。

【杉本委員】

議論の進み具合によって、表題を変えていけばよい。

【澁市委員】

正副会長と事務局で打ち合わせをして出てきた「買い物難民」、それに「中心市街地」の活性化に絡む問題。「買い物難民」というのは、「買い物難民」に関連する問題と捉えればよいか。タイトルは括弧して（仮称）としよう。そうしないと、木田の市職員が目を光らせているから、気をつけないといけない。そうすれば、例えば「中心市街地」の活性化に絡む、関連する問題といえ、ここに観光客のことが書いてあるが、関連するものはたくさんある。少し間口が広すぎるという話もあるが。例えば、空き家の問題。空き家が増えたら火事が増える。防犯の問題もある。活用の問題もある。だからそういう問題がどんどん出てくると思うので、そういう形で、仮の主題として、テーマとして2つを選ぶことに、私は反対しない。

【西山会長】

「観光」の話も出たが、「儀明川」だとか、「高田公園」だとか。その辺を含めて。ただ2つを出して、どちらをやるのかと言ったら、今のところ、まず1番先に提案するのは、食に関連した「買い物難民」と、それに結びつけた「中心市街地」に関して、現状の把握と、今後どうしたら良いかというので、話し合いをすることとし、テーマについては、「買い物難民」とか「中心市街地」とすることについて委員の了承を得る。

【西山会長】

委員全員で話し合っただけなので、自主的審議の提案書は出さなくてよいか。

【佐藤センター長】

提案書の提出は必要ないが、もし自主的審議を始めるのであれば、仮であっても、タイトルは必要になる。

【西山会長】

仮でも出してもらいたいということなので、それでは私の方で作らせてもらいたい。それから、正副会長の方でも話が出たが、現状を把握する必要があるということで、「買い物難民」と「中心市街地」に関わる市の担当課から来てもらい話を聞くことについて委員の了承を得る。

【杉本委員】

市の部署はどこから来てもらうのか。「買い物難民」ということからすると、店が無くなったということだろうから、現状どれだけ残っているかを把握している部署となると商業振興の担当か。

【佐藤センター長】

「中心市街地」となると、商業・中心市街地活性化推進室がある。

【澁市委員】

もう1つ、それは売る立場の側からだが、生活者の立場から、困っている人たちがいるわけだから、その人たちの実態を市は把握しているのかどうかも聞きたい。特に高齢者は高田区にも結構いる。

【杉本委員】

だから両面。

【澁市委員】

1つの課という訳にはいかない。

【西山会長】

売る方と買う方と両方とも意見が分かるような説明を、1つではなく、2つでも聞けるということか。

【佐藤センター長】

確認してみたい。

【澁市委員】

5つの担当部署があるのなら、5つの部署から来てもらえばよい。

【西山会長】

1つに限らず。

【杉本委員】

説明が1回で駄目なら、2回に分けてもよい。

【澁市委員】

市の悪いところは、完全な縦割りだと思う。要するにプロジェクトチームを作るといふ、そういう発想がないのか。協力してやるということがない。

【西山会長】

今聞いた、買う側と売る側というのは、お互いの立場があって、当然中心市街地もそうだが、買い物というのは、売る人と買う人が両方いないと成立しないというのがあるので、その辺を含めて、どこに聞いたらよいのか、どういう話をしたらよいのかということ、私たちの方で調整させてもらいたい。

【高橋委員】

関連してだが、「買い物難民」に関して、買い物に困っている方がいる、中心市街地に店がないということで、いくつか試みがなされてきたはず。寺町2丁目にも店ができたことがある。あと本町の商店街にも、どこだったか、4丁目辺りか、食品スーパーが要請に応じて店を出した。あともう1つ、あすとびあの1階にも食品スーパーがあった。それが全て立ち行かなくなったのは、結局経営的にうまくいけば残るわけである。「買い物難民」がいるなら助けてほしいという要請に応じて店を出したが、結局会計が立ち行かなくなったということは、お客さんが行っていないということ。行って利益が出れば回るはずだから。その辺の検証というか。試みはなされているのに、うまくいっていないという現状があるわけである。それは忘れないできちんと、今後のために見ていけばよいと思うが。

【高野副会長】

市は把握していると思うので、その辺をその時に聞いたらよいと思う。

【高橋委員】

店を出してもらったら、それを買い支える努力をしないと。地域の方が「買い物難民」がいるから助けると店を出したら出したで、そこで買物をしないでよそで買物をする。そういうこともきっとあるのではないかと思う。そういったところの食い違いも見てあげないといけないところだと思う。

【西山会長】

実は私この「買い物難民」の話が出た時に、1番最初に頭に浮かんだのは、私の地

元の寺町2丁目のスーパーである。寺町2丁目町内会長から、立ち上げから撤退されるまでいろいろな話を聞いていた。機会があれば、そういう試みをされた町内会長からここに来てもらい話を伺うのもどうだろうか。市担当者は市の側で話をするが、実際に現場の人からはまた違った側からの話もあると思うので。これから議論していく中では、地域で実際に携わった人や、住民だとか、さらにお年寄りから話を直接伺ってもよいと思う。どこかの場面で1回設けて、議論を深めていくという形にもっていけたらよいと思う。一気に全部はできない内容なので、できたら次回は雁木の保存に関する意見書の市からの回答があるので、次回にその話の時間が取れるかどうかは現時点ではわからない。市の担当課からの説明については正副会長と事務局で詰めていきたいと思うが、恐らく次回は雁木の保存に関する回答が来ると思われる。市からの回答に対する議論もあるので、他の議題を入れられるかどうかの保証はないが、2本立てで開催できるかどうかを含めて正副会長に調整を任せただけならと思う。去年は今頃からいろいろな審議事項が入ってきて、気づいたら5月まで全く自主的審議ができなかった。そうならないように、委員と相談しながら、別の時間を設けることも視野に、スケジュールを調整してこれから進めていきたい。

—事務連絡—

【西山会長】

「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

- ・協議会等日程 10月15日（月）午後6時30分～ 高田公園オーレンプラザ
- 11月19日（月）午後6時30分～ 高田公園オーレンプラザ
- 12月17日（月）午後6時30分～ 高田公園オーレンプラザ
- ・配布資料 雁木通り祭りのチラシと抽選券（南三世代交流プラザ運営委員会）

【西山会長】

小川委員から、「瞽女文化だより」を配布してもらった。瞽女についての理解を深めていただきたいと思う。また、地域活動支援事業で採択された行事が各地で行われているので、時間が許せば、見学に行っていたらと思う。

事務局の説明に質疑を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL: 0 2 5-5 2 2-8 8 3 1 (直通)

E-mail: nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。